

ショートコメント vol.147 (2019年7月23日)

テーマ：減少が進むEU向けの輸出
～アジアに加えてEUへの輸出も減少傾向に転落か～

●直近の輸出の推移

関西の直近の輸出動向をみると、アジア向けに加えて、EU向けにも減少がみられる（図表1）。

6月末のG20大阪サミットの開催に伴い、大規模な交通規制が敷かれたことから、輸出の一部が翌月に回った可能性もある。ただし、EU向けについては、そもそも今年に入ってから低調な動きが目立つ。

国別の動向をみると、かねてから動きが鈍かった英国やイタリア、オランダなどに加え、ドイツも前年割れとなっている（図表2）。世界経済の成長鈍化が取りざたされる中、ユーロ圏も例外ではない。英国のEU離脱問題やドイツ経済の不振などで状況は芳しくないことから、それに連動した動きであることは否定できない。

●ユーロ圏の景気減速による影響

一方、輸出品目別にみると、EU向けで前年割れが目立つのは、かねてからの輸送用機械に加え、直近では電機機器の動きも顕著となっている（図表3）。特に、通信機、電池、映像機器などが大きく減少している。

アジア向けでは電子部品の減少が目立つのとは異なり、全体としては消費関連の製品の減少が中心となっている。その背景には、ユーロ圏での消費の減速が進んでいる影響が指摘できよう。

●今後の注目点

今後については、ひとまずはG20大阪サミットの影響を見極める必要もあり、7月の推移を含めた判断が必要となろう。ただし、関西からEU向けの輸出は、ユーロ圏の製造業PMIとの連動性が高いことも事実である（図表4）。足元で同指数は大きく下げていることから、短期的な低下にはとどまらなるとみられることから、関西からの輸出もしばらく停滞する可能性がある。

関西の輸出に占めるEUの比率は、全体の1割強と限定的ながら、今はアジア向けの減少が続いており、タイミングは非常に悪い。輸出を取り巻く環境はさらに厳しくなるといわざるを得ない。

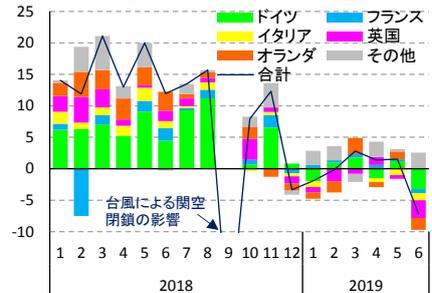
本件照会先：大阪本社 荒木秀之
TEL:070-6633-0038 mail:hd-araki@rri.co.jp

【図表1】 関西からの輸出の推移(前年比)



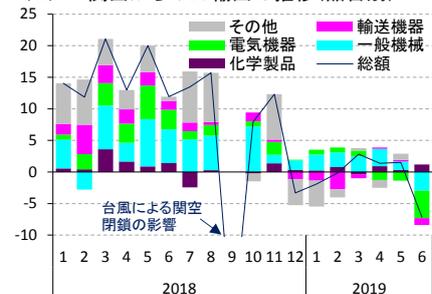
(出所)大阪税関「貿易統計」、以下同じ

【図表2】 関西からのEU輸出の推移(国別)



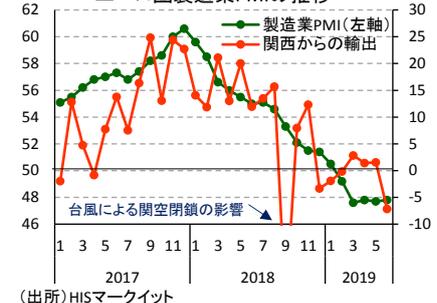
※18年9月の国別寄与度は表示せず

【図表3】 関西からのEU輸出の推移(品目別)



※18年9月の国別寄与度は表示せず

【図表4】 関西からのEU向け輸出(前年比)とユーロ圏製造業PMIの推移



(出所)HISマーケット

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。